

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

安浦中学校区 校番 23 学校名 呉市立安浦中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・目標に関しては安浦中が大事なこととして掲げたものであり、指標も分かりやすいもので計画的に進められている。 ・数年前の評価委員会の中で小学校の学力低下を危惧されていたため、これからも小学校と連携して学力向上を図って欲しい。
目標達成のための方策の適切さ	B	・つまずきの要因、基礎基本を定着させるための対策がなされている。 ・目標達成のための方策は適切であると思われる。 ・確かな学力向上のための具体策を示す必要がある。 ・3年間という限られた時間の中で結果を出すことが大切である。そのため、小テストを繰り返し行うことも必要である。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	・「自分には良いところがある」が下がっているが、『自主学習の例』や『元気をもらったことば』等個々を認める掲示物を掲示するなどの工夫をしており、自信に繋がっていると思われる。 ・毎年変化していく中で、しっかりと多岐に渡って分析をされている。
今後の改善策(案)の適切さ	B	・生徒と向き合う時間の確保について、生徒の授業態度から先生方の日々の一生懸命取り組んでいる姿勢が生徒に伝わっていると思われる。 ・働き方改革については、改善策に明記されているように実践してほしい。 ・学び合いの授業スタイルでは、グループが平均化しがちであるため、教科によってはレベル別の班分けも必要だと思う。 ・新年度までにどれだけ学力を定着させるかが大切である。
その他		・生徒たち一人ひとりに将来の夢をもたせること。そして、目標をしっかりと聴き、それに向かって向上心をもたせて取り組ませることが大切だと思う。 ・普段の生徒の姿が見えるような工夫や取組をしてほしい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての 今後の改善策	・落ち着いた状況で生徒が学習していたことやICTを活用した授業展開の工夫について良い評価であった。しかし、学力向上については課題があり、基礎基本の定着が不十分であることから思考の深まりができていない。研究部や教科主任を中心に授業改善を図り、小中で連携して学力向上のための取組を推進していく。 ・各学年とも学期ごとにふるさと学習が行えるような計画をしていきたい。地域の歴史、伝統、風習を十分理解したうえで、地域や仲間を愛する豊かな心を育成するよう努めていく。 ・防災教育について、ハザードマップ等を活用し、「自分の命は自分で守る力」の育成のため、「自分が住む地域に起こりやすい災害への理解」と「災害時に避難する場所や避難の仕方についての理解」の評価を100%となるよう取り組んでいく。 ・働き方改革への意識の醸成を図り、教職員で協働しながら業務の改善や精選を積極的に取り組んでいく。
------------------------	--